

東洋・日本美術史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 Semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
東洋・日本美術史概論	日本絵画史	2	杉本 欣久	3	前期 金曜日 4講時	
東洋・日本美術史概論	日本美術史基礎論— 彫刻の主題と表現	2	長岡 龍作	4	後期 金曜日 4講時	
東洋・日本美術史基礎講読	日本近世絵画資料講 読	2	杉本 欣久	3	前期 金曜日 5講時	
東洋・日本美術史基礎講読	東洋・日本美術史論文 研究	2	長岡 龍作	4	後期 金曜日 5講時	
東洋・日本美術史基礎実習	美術作品取り扱いの理 論と実践	2	長岡 龍作.杉本 欣久	3	前期 火曜日 3講時 前期 火曜日 4講時	
東洋・日本美術史基礎実習	美術作品取り扱いの理 論と実践	2	杉本 欣久.長岡 龍作	4	後期 火曜日 3講時 後期 火曜日 4講時	
東洋・日本美術史各論	美術と宗教思想	2	長岡 龍作	5	前期 月曜日 3講時	
東洋・日本美術史各論	日本近世美術史	2	杉本 欣久	5	前期 水曜日 3講時	
東洋・日本美術史各論	奈良仏教絵画史論	2	谷口 耕生	集中(5)	集中講義	
東洋・日本美術史各論	美術と宗教思想	2	長岡 龍作	6	後期 月曜日 3講時	
東洋・日本美術史各論	日本近世美術史	2	杉本 欣久	6	後期 水曜日 3講時	
東洋・日本美術史講読	絵巻物研究	2	長岡 龍作	5	前期 木曜日 2講時	
東洋・日本美術史講読	美術資料を読む	2	杉本 欣久	6	後期 木曜日 2講時	
東洋・日本美術史演習	美術作品研究	2	杉本 欣久.長岡 龍作	5	前期 火曜日 2講時	
東洋・日本美術史演習	美術作品研究	2	杉本 欣久.長岡 龍作	6	後期 火曜日 2講時	

科目名：東洋・日本美術史概論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB35403, 科目ナンバリング：LHM-ART201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本絵画史

2. Course Title (授業題目) : Japanese Painting History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。

一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は古代から中世の日本絵画を通覧し、その広範な文化的背景を解きほぐしていく。また、東アジアにおける日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides an overview of Japanese art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in Est Asia.

5. 学習の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of each era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター) を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1 回目 ガイダンス
- 2 回目 日本人と絵画 一画題研究 1ー
- 3 回目 花鳥風月・四季四時 一画題研究 2ー
- 4 回目 筆墨 一東洋絵画の見どころー
- 5 回目 古代の絵画 一白鳳・奈良時代ー
- 6 回目 平安京の思想と美術 一陰陽五行と鬼門ー
- 7 回目 鎮護国家の美術 一平安時代 1ー
- 8 回目 浄土教の美術 一平安時代 2ー
- 9 回目 地獄絵と六道の絵画一平安時代 3ー
- 1 0 回目 平安四大絵巻一平安時代 4ー
- 1 1 回目 宮中絵所預とやまと絵の系譜 一鎌倉～室町時代 1ー
- 1 2 回目 蓬莱山の美術・そして富士山へ 一画題研究 4ー
- 1 3 回目 禅の興隆と道釈人物画一室町時代 2ー
- 1 4 回目 禅の興隆と水墨山水画一室町時代 3ー
- 1 5 回目 「魚」を描く意味一画題研究 5ー

8. 成績評価方法：

【レポート】最終講義日を提出期限とし、それ以降は受け付けない。

詳細については、提出前数週間前のうちに授業時間内に伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』(中央公論美術出版)

杉本欣久『武士の絵画一中国絵画の受容と文人精神の展開一』(中央公論美術出版)

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970 年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版 (集英社 1970 年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版 (講談社 1970 年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日

1 0. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史概論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LB45402, 科目ナンバリング：LHM-ART201J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本美術史基礎論—彫刻の主題と表現

2. Course Title (授業題目) : Basic study of Japanese art history—Subjects of sculpture and Representation

3. 授業の目的と概要：古代からの日本美術の歴史を概観すれば、多くは信仰との関わりの中から生まれてきたことがわかる。不可視の世界を構想する宗教にとってそれを視覚化する美術はなくてはならないものだからだ。この講義では、日本において豊かに生み出された宗教美術のうち、特に彫刻を中心に論じる。人間の精神が生み出した造形を紹介することを通して、宗教と美術の本質的な関係を説明する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : If you overview the history of Japanese art from ancient times, you can see that many arts were born out of relationships with faith. Because religions that envision an invisible world need arts that visualizes it. In this course, among the religious arts created in Japan, I focus on sculptures in particular. I explain the essential relationship between religion and art through introducing the arts that the human spirit created.

5. 学習の到達目標：(1) 日本美術史における基礎的な知識を身につける。

(2) 美術史研究の基礎的な方法論を身につける。

(3) 特に彫刻研究についての知識と方法を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : (1) Students gain basic knowledge in Japanese art history.

(2) Students learn the basic methodology of art history research.

(3) Students learn the knowledge and method, especially about sculpture research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは****です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. ガイダンス

2. イントロダクション—法隆寺の美術

3. 薬師如来像に見る神仙思想

4. 東大寺と大仏の世界

5. 補陀落山観音の世界

6. 空海登場—密教がもたらしたもの

7. 釈迦如来の再生—清凉寺釈迦如来像がやってきた

8. 阿弥陀如来の再生—平等院鳳凰堂と中尊寺金色堂

9. 仏の世界はどこにある？—風景画の宗教的意味

10. 東大寺復興—重源の目指したこと

11. 五台山文殊の世界

12. 春日の神様と本地仏

13. 生身地藏の世界

14. 毘盧舎那仏と大日如来—明恵の描いた世界観

15. 仏教美術のひみつ—見える世界と見えない世界

8. 成績評価方法：

課題 [50%]、出席 [50%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009 年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014 年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史基礎講読／ Western Ethical Thought (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB35501, 科目ナンバリング：LHM-ART204J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世絵画資料講読

2. Course Title (授業題目)：Training to read documents related to the paintings in the Edo era

3. 授業の目的と概要：日本における歴史資料の原典は肉筆で書かれており、活字で出版された現代の本を見るだけでは不十分な場合が多い。なぜなら読み間違いやミスプリントが多々存在するからである。研究を確かなものとするためには原典資料にあたることは不可欠だが、そのためには古文書やくずし字、変体がなを読む訓練を経なければならない。

そこで本講では、日本近世絵画史の研究に必要な「変体がな」を読みこなすためのトレーニングとして、基礎資料である『名所図会』をはじめとした版本および実作品に付された賛文の基礎を学び、最低限の目標として浮世絵に付された変体がなは読めるようにしたい。

また、内容に即して日本文化の淵源となる基礎的知識を学んでいく。

他専修生の受講生も歓迎するので、ぜひこの機会に歴史資料にアクセスするスキルを高めていただきたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides a training program to read "Miyako Rinsen Meisyou Zue" and "Gajyou Youryaku" which are documents related to the paintings of the Edo era.

5. 学習の到達目標：美術史とは作品資料と文献資料の双方から情報を引き出し、作品を制作した人物やその時代の精神を明らかにすることを目的とする。それゆえ、文献資料の読解もおろそかにするわけにはいかず、日本史や中国史の研究者と同等の能力が求められる。それを獲得するためには継続的なトレーニングが必要となるが、本講では入門篇として江戸時代の「変体がな」で書かれた資料に触れ、その基礎を学ぶことを目標とする。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course aims to improve the students' ability to read documents related to the paintings in the Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

配布する資料を各自で読解し、残り時間で順番に読み上げていく。講師はそれに対して解説を加える。

1 回目 ガイダンス

2 回～8 回 江戸時代の版本を読む

9 回～14 回 実作品に付された賛を読む

15 回 読解テスト

8. 成績評価方法：

授業で配布するプリントを読解し、その習熟度および最終回のテストによって評価する。消極的受動的な態度は得点とはならない。十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970 年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版 (集英社 1970 年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版 (講談社 1970 年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日本美術全集』(講談社 1990 年代前半)

『世界美術大全集』東洋編 (小学館 1990 年代後半)

『日本美術全集』(小学館 2010 年代)

10. 授業時間外学習：授業で講読した資料の復習を十分に行うとともに、関連する資料にも目配りして日頃から触れておくことを求める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

単位を取得するためには、全体の 3 分の 2 以上の出席を要する。

科目名: 東洋・日本美術史基礎講読 / History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Reading)

曜日・講時: 後期 金曜日 5 講時

セメスター: 4 単位数: 2

担当教員: 長岡 龍作

コード: LB45501, 科目ナンバリング: LHM-ART204J, 使用言語: 日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名:】

1. 授業題目: 東洋・日本美術史論文研究
2. Course Title (授業題目): Study on the papers of Oriental and Japanese art history
3. 授業の目的と概要: 東洋・日本美術史研究における基盤的な研究論文をとりあげて精読する。毎回一論文を読み、担当者はそのなかで扱われた作品を画像で提示し、資料をレジュメとして示しながら、その内容を紹介する。また参加者は事前に論文を十分に読み込み、発表後に内容についてディスカッションを行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要): Students take up basic research papers of Oriental and Japanese art history and carefully read them. One person give a presentation about contents of papers at each class, showing pictures and documents. Participants will read the paper in advance and discuss the content after the presentation.
5. 学習の到達目標: 東洋・日本美術史に関する基盤的な論文を読むことを通じて、研究方法を習得する。
6. Learning Goals (学修の到達目標): Students learn the methods to research through reading basic papers on Oriental and Japanese art history.
7. 授業の内容・方法と進度予定:
この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは****b です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。
 1. イントロダクション—東洋・日本美術史研究の方法論
 2. パイロット発表
 3. パイロット発表
 4. 発表準備
 5. 発表準備
 6. 発表準備
 7. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
 8. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
 9. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
 10. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
 11. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
 12. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
 13. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
 14. 東洋日本美術史基盤論文についての発表と討論
 15. 総括と講評
8. 成績評価方法:
出席 [50%]・発表内容 [50%]
9. 教科書および参考書:
対象論文は事前に提示するので各自コピーを用意すること。
10. 授業時間外学習: 参加者は該当論文を事前に精読しておくこと。
Participants should carefully read the paper in advance.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他: なし

科目名: 東洋・日本美術史基礎実習 / History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Reading)

曜日・講時: 前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

Semester: 3 単位数: 2

担当教員: 長岡 龍作. 杉本 欣久

コード: LB32306, 科目ナンバリング: LHM-ART205J, 使用言語: 日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名:】

1. 授業題目: 美術作品取り扱いの理論と実践
2. Course Title (授業題目): 美術作品取り扱いの理論と実践
3. 授業の目的と概要: 素材の異なる美術作品の理解、作品の取り扱いと調査に関する基礎的な技術、展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。
 1. 美術作品の取り扱いと調査の仕方
 2. 展示についての考え方と実践
 3. 美術作品についての発表
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要): In order to acquire the basic skill of artwork research and to understand the thought for exhibition, this course provide students the following contents.
 1. Handling artwork and how to research artworks
 2. The thought for exhibition and practice
 3. Preparation of art works
5. 学習の到達目標: 美術の取り扱い、調査、展示についての基礎的な技術を習得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標): Students learn the basic skills for art research and exhibition.
7. 授業の内容・方法と進捗予定:

この科目は「対面授業」です。

ただし、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

 1. ガイダンス
 2. 学芸員になるために 一博物館の実状と学芸員という仕事一
 3. 「折本」「冊子」「卷子」の基礎と取り扱い
 4. 「掛軸」の基礎と取り扱い 1
 5. 「掛軸」の基礎と取り扱い 2
 6. 「屏風」の基礎と取り扱い 1
 7. 「屏風」の基礎と取り扱い 2
 8. 篆書(ハンコ)を読む
 9. 「刀剣」の基礎と取り扱い
 10. 「刀装具」「和鏡」の基礎と取り扱い
 11. 「仏像」の基礎と取り扱い
 12. カメラの撮影と画像の使用
 13. 箱の扱いと紐結び・工芸品の展示
 14. 博物館・美術館見学
 15. 取り扱い復習
8. 成績評価方法:

出席 [80%]・授業態度 [20%]
9. 教科書および参考書:

資料はその都度配布する。
10. 授業時間外学習: 展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。
 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 2. その他: なし

4セメ(後期)の東洋・日本美術史基礎実習(長岡・杉本)もあわせて履修することが望ましい。
実際の作品を扱うため、それなりの緊張感を持って臨むこと。
基本的にグループ学習であることから、人とのコミュニケーションが必要となる。

科目名：東洋・日本美術史基礎実習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Introductory Laboratory Work)

曜日・講時：後期 火曜日 3講時、後期 火曜日 4講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：杉本 欣久、長岡 龍作

コード：LB42305, 科目ナンバリング：LHM-ART205J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品取り扱いの理論と実践
2. Course Title (授業題目)：Theory and practice of handling artworks
3. 授業の目的と概要：素材の異なる美術作品の理解、作品の取り扱いと調査に関する基礎的な技術、展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。
 1. 美術作品の取り扱いと調査の仕方
 2. 展示についての考え方と実践
 3. 美術作品についての発表
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In order to acquire the basic skill of artwork research and to understand the thought for exhibition, this course provide students the following contents.
 1. Handling artwork and how to research artworks
 2. The thought for exhibition and practice
 3. Preparation of art works
5. 学習の到達目標：美術の調査と展示についての基礎的な技術を習得する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students learn the basic skills for art research and exhibition.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「対面授業」です。また、Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。
Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

 1. 博物館・美術館見学
 2. 和鏡の複製を作る 1
 3. 和鏡の複製を作る 2
 4. 和鏡の複製を作る 3
 5. 顔料と染料、箔の取り扱い
 6. 美術作品の梱包―「掛軸」と「和鏡」の梱包―
 7. 調書の作成1―作品の観察―
 8. 調書の作成2―解説について―
 9. 調書の作成3―調査方法と記録の取り方1―
 10. 調書の作成4―調査方法と記録の取り方2―
 11. 博物館での調査
 12. 展覧会の裏側「展示」を考える ―実地学習・藤崎―
 13. 江戸時代の画家を調べる
 14. ミニ展覧会
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

出席 [80%]・授業態度 [20%]
9. 教科書および参考書：

資料はその都度配布する。
10. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
4セメ(後期)のみの受講は認めない。必ず3セメ(前期)の東洋・日本美術史基礎実習(長岡・杉本)も履修すること。
実際の作品を扱うため、それなりの緊張感を持って臨むこと。

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LB51303, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2. Course Title (授業題目) : Art and Religious thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、日本の宗教美術、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。前期は、飛鳥時代から鎌倉時代までの仏教的世界観を概観しながら、その世界観に基づく美術を時代順に論じていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world. In the first semester classes, I will provide an overview of the Buddhist worldview from the Asuka period to the Kamakura period, and discuss art based on that worldview in chronological order.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教思想と造形の関係を理解する。

(2) 造形に投影された世界観を理解する。

(3) 造形表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : (1) Students understand the relationship between religious thought and arts.

(2) Students understand the world view projected on art.

(3) Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を配信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクション：仏教の世界観とその表象
2. 飛鳥時代前期の仏教的世界観と美術
3. 飛鳥時代後期（白鳳時代）の仏教的世界観と美術
4. 奈良時代の仏教的世界観と美術 1
5. 奈良時代の仏教的世界観と美術 2
6. 奈良時代の仏教的世界観と美術 3
7. 平安時代初期の仏教的世界観と美術 1
8. 平安時代初期の仏教的世界観と美術 2
9. 平安時代初期の仏教的世界観と美術 3
10. 平安時代後期の仏教的世界観と美術 1
11. 平安時代後期の仏教的世界観と美術 2
12. 鎌倉時代の仏教的世界観と美術 1
13. 鎌倉時代の仏教的世界観と美術 2
14. 鎌倉時代の仏教的世界観と美術 3
15. まとめ—古代・中世日本の仏教的世界観と美術

8. 成績評価方法：

レポート [50%]、出席 [50%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年、長岡龍作『仏教と造形 信仰から考える美術史』（中央公論美術出版）2021年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB53302, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は「日本絵画史」の続編にあたり、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、「刀剣」「刀装具」「染織」などの諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 唐絵とやまと絵—江戸時代以前ダイジェスト
- 3回目 狩野派の系譜 1—御用絵師・正信から元信へ
- 4回目 狩野派の系譜 2—永徳と桃山の大家
- 5回目 狩野派の系譜 3—探幽と江戸狩野の確立
- 6回目 8代将軍徳川吉宗の事績と狩野派
- 7回目 英一蝶と英派の絵画
- 8回目 京の町絵師 1—俵屋宗達から宮崎友禅へ
- 9回目 京の町絵師 2—尾形光琳と乾山
- 10回目 名物刀剣と江戸時代の剣術
- 11回目 刀装具と鐔の意匠性
- 12回目 雪舟流—長谷川派と雲谷派
- 13回目 近江商人の絵画と北関東への伝播—高田敬輔から小泉檀山へ
- 14回目 対外交易と長崎派
- 15回目 来舶清人・沈南蘋と南蘋派

8. 成績評価方法：

授業ごとに400字程度のレポートや課題を課し、その総合点によって評価する。このレポートは出席点も兼ねる。

1週間の提出期限を設けるが、内容についてクラスルームにて伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』(中央公論美術出版)

杉本欣久『武士の絵画—中国絵画の受容と文人精神の展開—』(中央公論美術出版)

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書 668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館 1970年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970 年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970 年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970 年代後半）

『日

1 0. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 その他

セメスター：0 単位数：2

担当教員：谷口 耕生

コード：LB98819, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：奈良仏教絵画史論
2. Course Title (授業題目)：The History of Nara's Buddhist Painting
3. 授業の目的と概要：古代から中世にかけて仏教文化の中心地だった奈良は、各時代にわたって描き継がれた仏画の重要作品が数多く伝わっている。こうした奈良の地に視点を据えて古代から中世に至る仏画作品の展開を概観し、その絵画技法や図像、絵画工房、安置儀礼空間の問題などを考察する
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Nara, a center of Buddhist culture from ancient times and through the medieval period, has produced and passed down countless masterworks of Buddhist painting in each generation. In light of this importance, the course focuses on the region to explore the development of Buddhist paintings ranging from the [seventh through the sixteenth?] centuries, engaging such problems as painting technique and iconography, painting ateliers, and the enshrinement of paintings in the sacred spaces of rituals.
5. 学習の到達目標：①絵画技法の継承と伝播、②図像の受容と変容、③絵仏師の工房制作、④礼拝空間で担う機能の問題など、日本仏教絵画史研究の中心課題を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Developing a grasp of such the central themes of art historical research into Japanese Buddhist painting as:, including:
 1. The inheritance and transmission of Buddhist painting techni
7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義レジュメを配付し、代表的な作品、時代背景などを解説する。関連作品はプロジェクターによって提示する。

 0. ガイダンス
日本の古代中世絵画史研究において奈良の仏教絵画が担う重要な位置づけを確認。
 1. 天平絵画の彩色技法
法隆寺金堂壁画、聖徳太子唐本御影、絵因果経、鳥毛立女屏風や香印座など正倉院宝物の絵画作品を通じて、日本仏教絵画の源流ともいべき奈良時代の絵画技法について考察。
 2. 奈良時代の儀礼と仏画 ①
法華堂根本曼荼羅の考察により、奈良時代の仏画が仏教儀礼空間においてどのような形で礼拝されたかを明らかにする。
 3. 奈良時代の儀礼と仏画 ②
薬師寺吉祥天像の考察により、奈良時代の仏画が仏教儀礼空間においてどのような形で礼拝されたかを明らかにする。
 4. 南都の平安仏画と宋代図像
達磨寺仏涅槃図の考察を通じて、院政期の奈良を代表する仏画に宋代図像の影響が顕著に認められることを指摘する。
 5. 南都仏画と天平復古①
天平絵画を写した白描図像である東大寺戒壇院扉絵図像、東大寺所蔵俱舎曼荼羅の分析を通じて、平安時代後期において奈良時代仏画の図像を復古的に用いた仏画が積極的に描かれたことの意義を明らかにする。
 6. 南都仏画と天平復古②
天平絵画を写した白描図像である東大寺戒壇院扉絵図像、東大寺所蔵俱舎曼荼羅の分析を通じて、平安時代後期において奈良時代仏画の図像を復古的に用いた仏画が積極的に描かれたことの意義を明らかにする。
 7. 中世南都の教学復興と美術①
鎌倉時代初期において奈良を拠点に教学復興や諸寺の伽藍復興を進めた解脱房貞慶。その思想が生み出した仏画作品を通じて、中世南都に広まった仏教絵画の特色を明らかにする。
 8. 中世南都の教学復興と美術②
鎌倉時代初期において奈良を拠点に教学復興や諸寺の伽藍復興を進めた解脱房貞慶。その思想が生み出した仏画作品を通じて、中世南都に広まった仏教絵画の特色を明らかにする。
 9. 中世南都の教学復興と美術 ③
鎌倉時代初期、京都・高山寺を拠点として南都仏教の中核を占める華嚴教学の復興に努めた明恵。その思想が生み出した仏画作品を通じて、高山寺を中心に広まった華嚴教美術や密教美術の特色を明らかにする

10. 春日曼荼羅の成立と展開①

奈良・春日大社への信仰にもとづく礼拝画像である春日宮曼荼羅が、平安時代末期に成立した契機と、南都の絵仏師によって多様に描かれた背景を明らかにする。

11. 春日曼荼羅の成立と展開②

奈良・春日大社への信仰にもとづく礼拝画像である春日宮曼荼羅が、平安時代末期に成立した契機と、南都の絵仏師によって多様に描かれた背景を明らかにする。11. The

12. 春日曼荼羅の成立と展開③

奈良・春日大社への信仰にもとづく礼拝画像である春日宮曼荼羅が、平安時代末期に成立した契機と、南都の絵仏師によって多様に描かれた背景を明らかにする。

13. 南都の寺院縁起としての信貴山縁起絵巻①

絵巻の最高傑作に挙げられる信貴山縁起絵巻が、南都信貴山本尊の靈験を説く日本最古の縁起絵巻であることを確認し、その制作に後白河院が関与したことを明らかにする。

14. 南都の寺院縁起としての信貴山縁起絵巻②

絵巻の最高傑作に挙げられる信貴山縁起絵巻が、南都信貴山本尊の靈験を説く日本最古の縁起絵巻であることを確認し、その制作に後白河院が関与したことを明らかにする。

15. 南都の祖師絵伝としての玄奘三蔵絵

玄奘のインド求法の旅を描いた玄奘三蔵絵、玄奘の旅行記である『大唐西域記』をもとに描かれた法隆寺五天竺図の分析を通じて、画面に投影された中世南都の仏教世界観を読み解く。

8. 成績評価方法：

レポート：7割

授業参加状況と小課題：3割

9. 教科書および参考書：

亀田孜『日本仏教美術史概説』（学芸書林、1970年）

有賀祥隆『仏画の鑑賞基礎知識』（至文堂、1991年）。

『日本美術全集③ 東大寺・正倉院と興福寺（奈良時代Ⅱ）』（小学館、2013年）。

『日本美術全集⑤ 王朝絵巻と貴族のいとなみ（平安時代Ⅱ）』（小学館、2014年）。

『日本美術全集⑧ 中世絵巻と肖像画（鎌倉・南北朝時代Ⅱ）』（小学館、2015年）。

10. 授業時間外学習：博物館・美術館・社寺などで実際に仏教絵画作品を見てもらいたい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

Semester：6 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LB61302, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と宗教思想

2. Course Title (授業題目)：Art and Religious thought

3. 授業の目的と概要：この講義では、古代日本の造形、特に彫刻について信仰との関わりから論じる。不可視の世界を構想する宗教にとって美術は重要な役割を持っている。宗教美術を理解することは、人間の精神世界に近づくことを可能にするのだ。後期はまず、平安時代の美術と関係の深い北宋時代の美術を紹介した後、清凉寺釈迦如来像の請来がもたらした平安時代以降の宗教美術の意義について論じる。その後、摂関期から鎌倉時代の宗教美術について、代表的な僧侶の思想を踏まえた観点から論じていく。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course I discuss religious arts in East Asia, especially sculptures from the relationship with faith. Art has an important role for religion that envisages invisible world. Understanding religious art makes it possible to approach human spiritual world. In the second semester classes, I will first introduce the art of the Northern Song Dynasty, which is closely related to the art of the Heian period, and then discuss the significance of religious art since the Heian period, which was brought about by the arrival of the Shaka Nyorai statue at Seiryōji Temple. Afterwards, we will discuss religious art from the Sekkan period to the Kamakura period from a perspective based on the thoughts of representative monks.

5. 学習の到達目標：(1) 宗教思想と造形の関係を理解する。

(2) 造形に投影された世界観を理解する。

(3) 造形表現を理解する方法を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1)Students understand the relationship between religious thought and arts.

(2)Students understand the world view projected on art.

(3)Students learn how to understand expressions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を配信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 鎌倉時代までの世界観と釈迦信仰
2. 北宋・遼美術の諸相1—盧舎那仏と梅檀瑞像
3. 北宋・遼美術の諸相2—盧舎那仏・釈迦・舍利
4. 奄然の入宋と清凉寺釈迦如来像1
5. 奄然の入宋と清凉寺釈迦如来像2
6. 平安時代の仏像と納入品
7. 重源の思想と美術1—東大寺再興と別所
8. 重源の思想と美術2—東大寺再興と別所
9. 貞慶の思想と美術
10. 春日信仰と美術—仏身論とその表象
11. 五台山と文殊菩薩像
12. 明恵の思想と高山寺の美術
13. 叡尊と忍性の思想と美術
14. 鎌倉時代の華嚴思想と美術
15. 仏身論から見る鎌倉時代の美術

8. 成績評価方法：

レポート [50%]、出席 [50%]

9. 教科書および参考書：

参考書：長岡龍作『日本の仏像』（中公新書）2009年、長岡龍作『仏像—祈りと風景』（敬文舎）2014年、長岡龍作『仏教と造形 信仰から考える美術史』（中央公論美術出版）2021年

10. 授業時間外学習：授業後に復習し、不明な事柄については自ら調べること

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史各論／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB63301, 科目ナンバリング：LHM-ART301J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本近世美術史

2. Course Title (授業題目)：The Edo era Art History

3. 授業の目的と概要：美術史とは歴史研究における方法のひとつで、美術作品を資料として分析し、どのような時代背景のもと、どのような意識に基づき、なぜ制作されたのか、各時代の人間の営為や精神を見つめることを目的とする学問である。一見、入口としてハードルは低そうに見えるが、美術作品はいわば歴史の「上澄み」であり、その下を支える思想、哲学、宗教、文学などは多様で複雑である。

本講は前期に引き続き、東アジアにおける文化の総決算ともいえる江戸時代に焦点を絞り、その広範な文化的背景を解きほぐしつつ、主要な美術作品の諸様相について概観していく。「絵画」のみではなく、諸工芸についても言及し、東アジアのなかの日本という観点から、中国大陸や朝鮮半島からの影響と日本の独自性についても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an overview of Edo art work, based on historical and cultural background and explanations influence from China and Korean Peninsula and originality of Japan from the perspective of Japan in East Asia.

5. 学習の到達目標：歴史を学ぶ意義は、現代に生きる我々を客観的に見つめ、自らを律するための「鏡(鑑)」となり得るところにある。単なる知識の修得のみに終始するのではなく、それぞれの美術作品を通じて過去の人間精神を知り、現代生活をより多様で豊かに過ごすための糧となるようにしたい。また、既成の概念や先入観に頼るのではなく、自律性の高い美術鑑賞能力を養うことを目標とする。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：This course covers Japanese art work to help students understand the Japanese human spirit of Edo era.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

講義だけではなく、視覚機器(プロジェクター)を使用して美術作品を鑑賞する。

- 1回目 ガイダンス 一美術史と鑑定
- 2回目 江戸と浮世絵1 一菱川師宣・西川祐信・鈴木春信一
- 3回目 江戸と浮世絵2 一東洲斎写楽と喜多川歌麿一
- 4回目 江戸と浮世絵3 一葛飾北斎と歌川広重一
- 5回目 『芥子園画伝』と文人画の黎明
- 6回目 武士の絵画1 一鑑戒一
- 7回目 武士の絵画2 一暢神一
- 8回目 京都と円山派1 一円山応挙一
- 9回目 京都と円山派2 一応挙の門人たち一
- 10回目 京都と四条派 一蕪村、呉春とその門人 一
- 11回目 天下の台所・大坂の絵画
- 12回目 江戸の絵画1 一18世紀の絵画状況(谷文晁の登場前夜)
- 13回目 江戸の絵画2 一谷文晁の登場と洋風画の隆盛
- 14回目 伊藤若冲 一その真実を探る

8. 成績評価方法：

授業ごとに400字程度のレポートや課題を課し、その総合点によって評価する。このレポートは出席点も兼ねる。

1週間の提出期限を設けるが、内容についてクラスルームにて伝えるものとする。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』(中央公論美術出版)

杉本欣久『武士の絵画一中国絵画の受容と文人精神の展開一』(中央公論美術出版)

辻惟雄『カラー版 日本美術史』(美術出版社)

尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波新書668)

◎美術全集

『原色日本の美術』(小学館1970年代前半)

『日本美術絵画全集』大型版・普及版(集英社1970年代前半)

『水墨美術大系』大型版・普及版(講談社1970年代前半)

『日本美術全集』(学習研究社 1970 年代後半)

『日

1 0. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

初回の授業は必ず出席すること。

科目名：東洋・日本美術史講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Reading)

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：長岡 龍作

コード：LB54211, 科目ナンバリング：LHM-ART304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：絵巻物研究

2. Course Title (授業題目) : Study on Picture scrolls

3. 授業の目的と概要：古代中世の仏教思想と美術の関係を考える上で重要な絵巻物を取り上げ、詞書きを精読する。そのことを通して、絵画表現に込められた意味を読み取ることに努める。対象は主に寺社縁起・祖師絵伝とし、候補作品には、「石山寺縁起」七巻、「法然上人絵伝」四十八巻、「春日権現験記絵」二十巻、「彦火々出見尊絵巻」六巻、「華嚴宗祖師絵伝(華嚴縁起)」(元曉絵三巻・義湘絵四巻)、「慕帰絵詞」十巻、「桑実寺縁起」上・下巻、「釈迦堂縁起絵巻」全六巻、「酒伝童子絵巻」上・中・下巻がある。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : Students take up the picture scrolls important for considering the relationship between ancient medieval Buddhist thought and art, and carefully read the captions (narrative texts). Through that, students try to read the meaning contained in the painting expression. The object of the study is mainly the picture scrolls of "Jisha-engi" and "Sosi-eden".

5. 学習の到達目標：絵画表現の読解法、文字資料の読み方、関連資料の調べ方を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students acquire the skill for understanding painting expression and narrative texts, and the skill for finding related materials.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは****u です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクション—授業の目的と方法論
2. パイロット発表
3. 発表準備
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
8. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
9. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
10. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
11. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
12. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
13. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
14. 絵巻物作品の詞書きの読解と絵画表現の紹介及び討論
15. 総括と評価

8. 成績評価方法：

出席 [50%]、発表内容 [50%]

9. 教科書および参考書：

授業中に指示する

10. 授業時間外学習：参加者は各授業の該当の箇所を事前に読んで授業に臨むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史講読／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Reading)

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：杉本 欣久

コード：LB64209, 科目ナンバリング：LHM-ART304J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術資料を読む

2. Course Title (授業題目) : Training to read information of Japanese art work

3. 授業の目的と概要： 本講は本当の意味での「美術鑑賞」を行うための実践的授業で、講師の近著である『鑑定学への招待』に書いた内容を実際に行う。つまり、毎回、日本美術史が扱う絵画、彫刻、工芸など諸分野のなかから 1 作品を取り上げ、そこから読み取るべき情報の獲得を「トレーニング」する。

たとえば、絵画作品について「筆遣いが良い」との評価がなされた場合、それを「実感」するためには「感性」によるしかないとい一般的には思われているだろう。ここで言う「感性」とは持って生まれたり、環境によって育まれた個人の「資質」に起因するものだが、そのように規定してしまえば「教育」の余地が失われることになってしまう。けれども、多くの人がそれを「実感」し、共有するためには「教育」が不可欠である。

そこで本講では同じようにみえる類似した 2 作品を提示し、その中に存在する相違点を見出して指摘、発表していく実習形式をとる。作品比較を続けていけば、やがて「どちらが良い線か」「どちらが上手いか」などの「認識」が育まれてくる。

これは美術史研究にとって不可欠な「スキル」であり、その先に「真贋」の判別にも必要な「鑑識眼」の獲得に結びつくのは言うまでもない。

毎回、他学部や他専修の受講生も参加しており、この論理性を重視する方法論はどのような学問にも有効と考える。未開発の能力が開花する可能性もあるため、美術史を専門としない学生の受講も歓迎する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course provides programs of training to read information on Japanese art work. It helps students learn about the differences between Japanese art work by comparison and appreciate them.

5. 学習の到達目標： 美術作品を歴史資料として用いる場合だけでなく、一般的な鑑賞の際にも「どこを見れば良いのかわからない」といった声をよく耳にする。それはこれまでの学習方法において、書籍によって何らかの事象を調べることに慣れているものの、対象に即して自分自身の眼でつぶさに観察分析し、情報を読み取る訓練がほとんどなされていないことに起因している。試みに、ある作品を調査せよと指示すれば、多くが実物を観察するより先に、それについて記された本を探すことから始めてしまうだろう。このような姿勢では、いつまで経っても作品そのものから情報

6. Learning Goals (学修の到達目標) : This course aims to improve the students' ability to read information on art work and explain their thoughts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Classroom を使用して授業を行うとともに、講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

予習で行なってきた作品観察、解説批判の結果を、最初の 1 時間で受講生が発表する。残りの 30 分は講師が作品について論じる。以下におおよその内容を示しておく。

1 回目 ガイダンス

2 回目 絵画

3 回目 刀装具

4 回目 絵画

5 回目 刀装具

6 回目 絵画

7 回目 和鏡

8 回目 絵画

9 回目 和鏡

10 回目 絵画

11 回目 陶磁器

12 回目 絵画

13 回目 受講生による作品の比較発表

14 回目 受講生による作品の比較発表

15 回目 受講生による作品の比較発表

8. 成績評価方法：

事前にクラスルームに掲げる画像を予習として分析しておき、授業当日に行う質疑内容によって評価する。消極的受動的な態度は得点とはならない。

十分な出席が必要となり、かつ消極的受動的な授業態度であれば単位は出ない。評価は発表内容とともに主体性の部分で判断する。

9. 教科書および参考書：

【参考書】

◎基本図書

杉本欣久『鑑定学への招待』（中央公論美術出版）

辻惟雄『カラー版 日本美術史』（美術出版社）

尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書 668）

◎美術全集

『原色日本の美術』（小学館 1970年代前半）

『日本美術絵画全集』大型版・普及版（集英社 1970年代前半）

『水墨美術大系』大型版・普及版（講談社 1970年代前半）

『日本美術全集』（学習研究社 1970年代後半）

『日本美術全集』（講談社 1990年代前半）

『世界美術大全集』東洋編（小学館 1

10. 授業時間外学習： 内容によっては実際の作品を授業に持参するが、日頃から博物館や美術館、神社仏閣へと足を運び、実物から何を学ぶことができるのか、自身の眼を通じて主体的に体感しておく必要がある。また、実生活のなかで何を観ていて何を観ていないか、あるいは何が観ていて何が観ていないか、自身の観点を客観化する訓練をしておくことよ。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

単位を取得するためには、全体の3分の2以上の出席を要する。

科目名：東洋・日本美術史演習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：杉本 欣久、長岡 龍作

コード：LB52206, 科目ナンバリング：LHM-ART305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品研究

2. Course Title (授業題目) : Study on artworks

3. 授業の目的と概要：東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博捜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Students take up the artwork that one was particularly interested in from Oriental or Japanese art, and give a presentation at each class.

5. 学習の到達目標：美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝えるスキルを習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students learn the method of work analysis which is the foundation of art history, and acquire the skill to describe one's own idea.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクション—美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
8. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
9. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
10. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
11. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
12. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
13. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
14. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論
15. 作品研究発表（4年次学生）ならびに討論

8. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表態度 [50%]

9. 教科書および参考書：

授業中に指示する

10. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋・日本美術史演習／ History of Oriental and Japanese Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：杉本 欣久、長岡 龍作

コード：LB62205, 科目ナンバリング：LHM-ART305J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術作品研究

2. Course Title (授業題目) : Study on artworks

3. 授業の目的と概要：東洋または日本美術の中から、特に興味を覚えた作品をとりあげ、各回一名が口頭発表をおこなう。作品そのものの十分な観察をおこなった上で、自身が設定する問題について考察する。その作品について先行研究がある場合は研究史を十分に回顧し、先行研究が乏しい場合は、自ら作品に関する基礎資料・関連資料を博捜・精読・整理する。発表及びその後の討論を通し、参加者に対し自らの考えを的確に伝えるよう努める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Students take up the artwork that one was particularly interested in from Oriental or Japanese art, and give a presentation at each class.

5. 学習の到達目標：美術史の基礎である作品分析の方法を身につけ、それを自身の考えとしての的確に伝えるスキルを習得する。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students learn the method of work analysis which is the foundation of art history, and acquire the skill to describe one's own idea.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは****です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. イントロダクション—美術史研究の方法論
2. パイロット発表
3. パイロット発表
4. 発表準備
5. 発表準備
6. 発表準備
7. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
8. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
9. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
10. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
11. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
12. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
13. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
14. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論
15. 作品研究発表（3年次学生）ならびに討論

8. 成績評価方法：

出席 [50%]・発表態度 [50%]

9. 教科書および参考書：

授業中に指示する

10. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし